

(注)「マダガスカル共和国月報」は、当地新聞報道をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意願います。

マダガスカル共和国月報（2025年2月）

《要点》

【内政】

●12日 当地 L'Express 紙によると、各国の汚職の認識度を評価しランク付けする CPI（腐敗認識指数）が、年初に発表されるが、11日に発表された CPI2024 では、マダガスカルは100点満点中26点の評価を受け、CPI2023と比較して5ランク上昇し、180カ国中140位となった。

【外政】

●27日 当地各紙によると、ラバリニリナリソン経済・財政大臣が共有した情報によると、IMFは長期融資制度（EFF）および強靱性・持続可能性ファシリティ（RSF）の最初のレビューに基づき、1億300万ドルの資金供与を決定した。

●27日 当地 Midi Madagasikara 紙によると、「マダガスカルのロシア友の会」は、ロシア外交の積極的な橋渡し役として、マダガスカル国内においてますます重要な役割を果たしている。2021年に設立された同団体は、主に元ロシア留学生であるマダガスカル人によって構成されており、マダガスカルにあるロシア大使館から継続的に、財政的・ロジ的な支援を受けている。同友の会は、さまざまなイベントや取組を通じ、両国間の関係強化において重要な役割を担っている。

【経済】

●6日 当地 Midi Madagasikara 紙によると、5日よりガソリンスタンドで自動調整メカニズムに従った新価格が適用された。燃料価格に対するインフレの影響を考慮すると、この変動による経済への影響は避けられないとのこと。

●27日 当地 Midi Madagasikara 紙によると、国営電力水道公社（JIRAMA）の従業員はCEOのロン・ワイス氏と3人の取締役に対する不満を表明するためにゼネストを実施する意向である。

1 内政

1日 当地各紙によると、2025年から2030年までの新国家汚職対策戦略（Nouvelle Stratégie nationale de lutte contre la corruption : SNLCC）が1月31日、正式に発表された。同戦略の目的は、汚職の温床を排除し、この悪弊との闘いを強化すること。

3日 当地 Midi Madagasikara 紙によると、支持者との会合で、ラヴァルマナナ元大統領は、今後の野党運動に備えて基盤を強化していくと宣言した。

6日 当地各紙によると、2024年12月11日の地方選挙で65.71%の得票率を得て Antsiranana 市選挙区で当選したジャン・リュック・ジャボジョザラ（Jean Luc

Djavojozara) 候補は依然として所在不明で、その議席の空席に起因し、政府はアンチラナナ州都市共同体の管理を目的とした特別代表団を設置した。

10日 当地Midi Madagasikara紙によると、市民団体「Safidy」による2024年12月11日の地方選挙に関する報告書では、多数の不正行為と透明性の欠如が指摘された。同組織の任務は、EUと仏語圏国際機関（OIF）の支援を受け、365自治体に設置された2,738の投票所の監視を行うこと。

12日 当地L'Express紙によると、各国の汚職の認識度を評価しランク付けするCPI（腐敗認識指数）が、年初に発表されるが、11日に発表されたCPI2024では、マダガスカルは100点満点中26点の評価を受け、CPI2023と比較して5ランク上昇し、180カ国中140位となった。

20日 当地各紙によると、フリードリヒ・エーベルト財団（FES）マダガスカル事務所は2026年8月に閉鎖されることが発表された。この決定は予算上の問題に起因するもので、ベルリンで開かれた取締役会で下された。

2 外政

1日 当地各紙によると、ラジョリナ大統領は1月31日ジンバブエを訪問し、南部アフリカ開発共同体（SADC）の一員として、コンゴ民主共和国情勢に関する臨時サミットに参加した。

4日 当地MALAZA紙によると、IMF特使団によるミッションが終了した。ラバリニリナリソン経済・財政大臣に提出された概要報告書によると、同ミッションの目的は、グッドガバナンスと汚職対策であった。

12日 当地各紙によると、アフリカ経済開発アラブ銀行（BADEA）はアンタナナリボトアマシナ間の高速道路建設の資金調達に貢献する。同プロジェクトの第2段階資金は、2億5000万～3億5000万ドルとみられている。

13日 当地各紙によると、ラジョリナ大統領とアンワール・ムハンマド・ガルガーシュ（Anwar Mohammed Gargash）アラブ首長国連邦外務担当国務大臣は、両国間の包括的経済連携協定（CEPA）に関する覚書を締結した。

17日 当地各紙によると、マハムッド・アリ・ユスフ（H.E.Mr.Mahmoud Ali Youssof）候補（現ジブチ共和国外務・国際協力大臣）が、接戦となった第6回投票の結果、アフリカ連合委員会の新委員長に選出された。マダガスカルのランジアマンジャトゥ（RANDRIAMNDRATO Richard）候補は第3回投票で落選した。

17日 当地MIDI Madagasikara紙によると、AU人権委員会の委員にマダガスカル人女性を選出された。該当女性は、ラマナナリヴ（RAMANANARIVO Narindra Arivelo）夫人である。

26日 当地各紙によると、ラジョリナ大統領とアフシャン・カーン（Afshan Khan）国連事務次長補が会談し、3月末にパリで開催予定の「栄養サミット」に先立ち、栄養

についても協議した。

26日 当地Midi Madagasikara紙によると、24日、ジー・ピン（JI Ping）中国大使とアンジアナメラス水・衛生大臣は保健プロジェクトに係るENに署名した。

27日 当地各紙によると、ラバリニリナリソン経済・財政大臣が共有した情報によると、IMFは長期融資制度（EFF）および強靱性・持続可能性ファシリティ（RSF）の最初のレビューに基づき、1億300万ドルの資金供与を決定した。

27日 当地MIDI Madagasikara紙によると、「マダガスカルロシア友の会」は、ロシア外交の積極的な橋渡し役として、マダガスカル国内においてますます重要な役割を果たしている。2021年に設立された同団体は、主に元ロシア留学生であるマダガスカル人によって構成されており、マダガスカルにあるロシア大使館から継続的に、財政的・ロジ的な支援を受けている。同友の会は、さまざまなイベントや取組を通じ、両国間の関係強化において重要な役割を担っている。

28日 当地各紙によると、ラサタ大臣は27日、ジャン＝ノエル・バロ（Jean-Noël BARROT）・フランス共和国欧州・外務大臣と電話会談を行った。この発表は、フランス外務省により行われた。この電話会談により、両者は、マクロン氏の訪仏準備を含む、各分野における二国間関係と協力の強化に対する共通のコミットメントを再確認した。

3 経済

4日 当地各紙によると、3日、ハイブリッド米普及プログラムが、アンパラファラヴラ（Amparafaravola）郡で開始された。主な目的は、次の収穫期までに自給自足を実現するために米の生産量を増やすことである。

6日 当地MIDI Madagasikara紙によると、5日よりガソリンスタンドで自動調整メカニズムに従った新価格が適用された。燃料価格に対するインフレの影響を考慮すると、この変動による経済への影響は避けられないとの由。

7日 当地L'Express紙によると、マダガスカル初の風力発電所の建設は順調に進んでいる。Rio Tinto社QMMが管理するエホアラ公園プロジェクトの一環として設置された最初の風力タービンは、まもなく稼働する。

13日 当地各紙によると、ドバイで開催されたワールド・ガバメント・サミットにおいて、ラジョリナ大統領はマダガスカルを有望な観光地として紹介し、この潜在能力を発展させるために民間部門へ協力を呼びかけた。

13日 当地L'Express紙によると、繊維製品はマダガスカルと米国間の貿易の原動力となっている。米国国勢調査局のデータによると、2024年、マダガスカルの対米輸出額は7億3320万ドルに達し、そのほぼ半分が繊維製品によるものだった。

17日 当地各紙によると、マダガスカルは、ジュネーブで開催されたマダガスカル第4回貿易政策再編会議において、自由化と工業化の継続を基盤とする新たな貿易政策

を発表した。ラランブフィリング産業化・貿易大臣は、マダガスカルは貿易慣行は、WTOが定める国際規則に準拠していると表明した。

22日 当地各紙によると、マダガスカル政府とRio Tinto社は、国道13号線の修復に940億アリアリ（約30億円）を投資している。このプロジェクトは、国家インフラ開発のための戦略的パートナーシップを象徴している。

24日 当地各紙によると、メナベ州の5地区が大規模な米作地帯として開発されることが決定された。22日、ラザナマエファ食糧主権担当長官の出席のもと、大規模なハイブリッド米生産プロジェクトが正式に開始された。

27日 当地Midi Madagasikara紙によると、国営電力水道公社（JIRAMA）の従業員はCEOのロン・ワイス氏と彼を取り巻く3人の取締役に対する不満を表明するためにゼネストを実施する意向である。

（了）